

## 第5回 塩竈市長期総合計画審議会概要

日 時 平成21年12月1日(火) 13:00~15:00  
場 所 マリンゲート塩竈 2階 ベイサイドルーム  
出席委員 大滝委員、宮原委員、丹野委員、太田委員、馬場委員、狭間委員、土井委員、小野委員、  
今野委員、北村委員、横山委員、板橋委員、阿部(邦)委員、庄子委員、松戸委員、柴田委員、  
佐々木委員  
欠席委員 8名  
塩 竈 市 各部長  
事 務 局 総務部政策課  
司 会 議長 大滝会長

### 1. 開会

### 2. 会長挨拶

### 3. 審議事項

第5次長期総合計画に向けた主要課題(案)について  
塩竈市の人口について  
塩竈市の行財政環境について

#### 【人口について】

(委 員) 平成12年に人口の自然増ですが、平成13年以降の減少理由は何でしょうか。

(事務局) 少子化については団塊ジュニアが晩婚化、非婚化の流れの中で30代の前半の出生数が少なくなり、一方では高齢化が進み、死亡が増えている状況ですが、詳細の分析はしておりません。

(委 員) 人口の将来の数字が楽観的と考えます。

(事務局) 平成32年の人口51,201人という数字は厚生労働省の推計値ですので、それをたたき台にしております。人口目標をどこに置か今後検討していく必要があります。

(委 員) 子育て世代の転出が多い理由に魅力がないから、ということは全国の自治体でも同様です。しかし、転居する場合でも近隣が多く、育った地域から極端に遠距離にはならないと考えますので、引き続き居住していただくための施策、市民の育成を含めながら考える必要があります。

#### 【行財政について】

(委 員) 行財政環境について、市民所得の推移が平成17年から増加に転じた理由についてもお願いします。

(事務局) 市民所得の詳細については未分析です。

(委 員) 下水道料金を市民は負担していますが、下水道の地方債残高368億円がある理由と市立病院の負債が19億円の内容について教えてください。

(事務局) 下水管線整備についての経費です。下水道料金は管の整備と処理費に使用しています。また、生活環境と海の水質保全のために他の市に先駆けて整備を行ってきました。市は埋立地が大半を占める状況から管線整備経費が他の市町より過大であることが理由です。

病院の負債は19億円プラス4億円です。うち19億円は地方財政制度上認められた借入金であり、長期間で返済していきます。また、残りの4億円は運転資金の借入です。

(委 員) 行財政状況が非常に悪いのは昔から言われており、過去より今後の見通しが重要です。歳入不足解消に向けた取り組みで収納率向上による市税の確保2億円とありますが、現在の収納率を何%に上げる予定ですか。

(事務局) 収納率は市税全体で90%程度という状況で、91%~92%に上げたいという所です。滞納の整理についてもしっかり行き、少なくとも2億円は確保していく考え方です。

(委員) 収支不足解消に向けた取り組みで、職員定数の減等による人件費の抑制に議員の数は含まれていますか。大きな歳出の削減になりますので、検討してください。また、議員定数というのは誰が決めるのでしょうか。

(事務局) 現段階では職員定数削減の中に市議会議員は含まれていません。また、議員定数は市議会議員の議決事項となります。

(委員) 土地売却等による市有財産の活用について、現在市所有の土地はどのくらいありますか。

(事務局) 正確なデータは持っていませんが、20か所程度あると思います。接続道路や法面の問題があり、なかなか売却できない状況です。また、公共事業実施のため、土地の先買をする土地開発公社という仕組みがあります。そこでは9件簿価で30億円ほどの塩漬け土地がありましたが、平成18年から経営健全化に取り組み、平成22年度までの5年で市が買い取りしながら、計画的に返済していく予定です。これらの土地は市で買い取って終了ではなく、活用を検討していく必要があります。

(委員) 歳入、歳出のシステムが理解できない部分があるので、わかりやすく示して欲しい。

(事務局) 市民の目線で判り易くするよう心がけていきたいと思っています。

(委員) 平成26年度までの財政見通しで、これから一番支出が多い項目を3つ挙げるとしたら何でしょうか。

(事務局) 一つ目は塩漬けの土地を解消する為に、銀行から借り入れている資金の返済です。二つ目は市立病院が約20億円の資金不足の借り入れ分の返済。三つ目は社会保障関係の経費（児童手当関係、国民健康保険、介護保険など）が高まっており、これらが今後の財政を圧迫する大きな要因になります。

(委員) 最後の社会保障費の増大はどの自治体も同じ状況です。前段の2点については、その前に活性化の事業や前向きな計画を策定して予算を充てるのは困難ですか。これからは、返済を優先させる5年間という認識でよろしいでしょうか。

(事務局) 財政に対してきちんとした展望を持ち、社会保障関係を維持しながら塩竈で安心して暮らせる環境を整えていくこと。さらにハードウェアの方面、港湾整備など、もっと魅力的なものにしていかなければならず、中心市街地のリニューアルへの投資などが必要になってくると考えています。

(会長) 財政の問題について制約的なことが出てきます。総合計画の中に何をもってくるか、人口については、この先20年ぐらいはかなり正確にこの推移にしたがって動いていくと思います。財政についても10年20年先までは、このような推移でいくのではないかと、その推移にそって計画を立てて行くこととなります。

#### 【主要課題について】

(会長) 前回議論した主要課題について、今回はさらに追加意見をいただきます。歳入が減り、歳出は抑えられているので、やるべきことは限られてきています。地域経済の活性化、特産品のPR、若年層を含めた人口増加、などを具体的にどのような方向性で構築していくのか。「塩竈らしさ」や市民力の強化など様々な課題がたくさんあるので、ご意見をいただきます。

(委員) 地方分権改革は、権限移譲、関与の廃止、財源移譲であり、権限委譲の受け皿整備としての市町村合併という流れになっています。分権は、市民の政治参画の拡大や満足度の高い社会の実現が本来の目的で、その際には一定規模の自治体となることは必要条件です。長期将来構想を検討する際にも、広域的な行政需要の拡大の観点から、広域行政の連携強化や市町村合併を前提とした議論も必要になってきます。

(委員) 次期計画の考え方について、自ら活動する姿勢を計画の中に取り込むことが重要と考えます。例えば、人口減少は放置すれば下落傾向のままなので、積極的な方策が必要です。人口200人増加などの目標を立て、そのための施策を構築するなどの目標があつてこそ、様々な活動が出てきます。

塩竈市は港町で歴史もあるが、市民であることのステイタスやアドバンテージになる工夫が必要です。それを利便性、生活の中の面白さを狙う方向で表現できないかと考えます。地域経済の活性化については、観光に傾注することを表していますが、さらに積極的に観光による交流振興を目標に挙げて、その中でアイデアを出していくことが重要です。

(委員) 誰かに何かをやらせてもらえて当然という世の中になってきているので、次期計画の主要課題において

市民の「権利」「義務」「責任」について表記すべきです。市民力の強化で「福祉社会」とありますが、これは他力本願ではなく、自力本願の社会であること及び道徳的なことを幼年期から教育していくことが必要です。

(委員) 塩竈市に育ててもらった塩竈市民ということで自負しています。そのような市民が増えていけば、金額の多寡ではなく地元のために行動する人が出てくると考えます。主要課題についても綺麗な言葉でなく、「できることはやりますが出来ないことはできない」と全面的に出していく必要があり、市民にも負担してもらうことも出てくると考えます。あいまいな言葉ではなく、明確な項目を次期計画に盛り込むのが良いと考えます。

#### 【浦戸諸島について】

(委員) 浦戸諸島を地域の宝物と認識しており、人を呼び込むことで活性化すれば、市の財政にも貢献できると考えています。フラワーアイランド構想に取り組んでいますが、参加が少ない状況です。生涯学習的な取り組みなど市民が率先し、地域住民が参加するなどの形を構築して、全国にPRしていきたいと考えております。その点も含めて浦戸諸島に目を向けていただきたい。

(委員) 島それぞれ意識の違いがあり、観光地化されると島が汚されるという思いがあります。マナーの悪さなどでキャンプを禁止した経過もあります。高齢化が進み、海苔や牡蠣など生業で忙しいこともあります。いろいろな課題があるが、すばらしい島なので、環境を保全しながら、活性化の方策を打ち出していきたい。

(委員) 以前、浦戸諸島で養殖の貝を採取してしまったことがあります。島外から来た人は知らないのに、島の方でも伝えるべきと考えるし、訪れる人もしっかりと勉強して訪れるべきです。

(委員) 島民との会話から『沢山の人たちに来ていただきたい、そうしたら自分たちも元気になる』と聞いております。観光客を呼ぶ前の段階で手を拱いているのが現状で、早急な手当てが必要と考えています。島を活性化すれば、船乗り場であるマリゲート塩釜も活性化すると考えます。一過性ではなく、年間を通して島が活性化できるよう取り組みを実施していく必要があり、それを住民も望んでいると考えます。

(委員) 浦戸諸島には診療所だけで開業医がいません。人口から考えれば採算が取れないので、島々の人口を増やす方策を取りながら、医療の充実や活性化を図っていければと考えます。

(委員) 有償ボランティアの育成を考えるべきです。また、一過性のイベントで島を汚してしまうのは悲しい事です。私見ですが、観光地を居住地としたくないと考えます。活性化のためには、観光客にお金を落としてもらう仕組みを構築するべきです。

(会長) 浦戸諸島の課題や対応策については別に考えていきます。総合計画の中で何らかの形で浦戸諸島の振興については盛り込んでいきます。

#### 【塩竈市の活性化について】

(委員) 塩竈市は歴史や水産業のありかたを学ぶなど、様々なことができるまちと考えます。観光だけではなく、塩竈市の資源を利用して体験学習的な集客力を高める方向性も重要と考えます。

(委員) 昔は、活力と魅力、仕事がありました。今はそれがなくなり、人口も減少しています。住む魅力が少なくなってきたので、人口も増加しないと考えます。現代的な魅力、求められているものを考えて、若者たちがここに残って仕事がしたいという魅力的な雇用を創生していくことも行政の仕事だと考えます。民間と協力しながら具体的に議論しアイデアを出してもらいたい。

(委員) 昔は塩竈市に修学旅行生が多く来ていましたので、改めて官民一体の誘致活動をするべきと考えます。

(委員) 塩竈市で開業して約 40 年になりますが、当時は子供の数が多かったです。塩竈市は若年層に対する助成、乳幼児医療費助成制度の拡充がなされていない部分があり、そのため近隣市町に人口が流出したと想定します。まちの活性化はイコール子供の活性化とも言えますので、その部分を充実していくべきです。

(委員) 当時、塩竈に人が来たのは鉄道などの交通の便が良かったからです。近年はバスや新幹線、自動車道路など交通の発達により、塩竈市が狭間に落ち込んだということです。先日、横浜の八景島シーパラダイスに行ってきました。だいぶ古くなっていましたが、マリゲート塩釜から見る風景も同じようでした。塩竈市は資源や可能性がたくさんあります。

(委員) 人口減少は止まらないと考えますので、少ない人口と少ない収入でやる為の事業を考えるべきです。今は高齢でも医療が進歩して皆元気であり、働けるが受け入れ先が無い状況ですので、ボランティアの活用などにより市民満足を向上させる事業を検討することを考えます。

(委員) 門前町なのに観光客が商店街を通過して参拝する構造ではなく、直接車やバスで塩竈神社に行ってしまう状況です。商店街を歩くようにすると活性化になるので、検討する必要があります。また、マリゲート塩釜は、観光バスからすぐ船に乗ってしまうので、買い物をしない原因になっています。

(委員) バスの駐車場について、壺番館の計画の際にバスプールにして人を歩かせるべきと意見しました。マリゲート塩釜の件については、バス会社の関係で買い物をする場所が決まっているので、リベートや交渉をしっかりとすべきと考えます。

#### 【まとめ】

(会長) 課題についてある程度整理が出来ました。市民力の強化と地域経済の活性化は繋がっていると考えます。それに多くの市民が気づき、動き始めれば新しい展望が開けてきます。今の塩竈でそういう動きが出てきているという希望を持っています。今後、具体的に話を進めれば良いことです。次回以降については、課題に対し「何が出来るか」「出来ないことは何か」など、やれることやれないことの強弱をつけた議論します。

次回の審議会は1月19日(火)13:30~です。場所は未定ですので後ほどご案内させていただきます。